

会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県立図書館協議会
日 時	令和4年9月26日(月) 13:30~16:00
場 所	沖縄県立図書館 6階研修室
出席委員名	山口真也委員（会長）、榮野川敦委員（副会長）、辻上弘子委員、山城勝美委員、カーマシュー委員、新垣吉宗委員、中島徹也委員、川満奈美絵委員、奥間千賀子委員、呉屋美奈子委員（10名）
議題及び報告事項	報告事項 1 「沖縄県立図書館窓口等運營業務委託」に係るモニタリング（令和3年度対象）について 協議事項 1 沖縄県立図書館運営方針に基づく図書館評価（令和3年度対象）について 協議事項 2 沖縄県立図書館利用者満足度調査実施要領等について
会議の概要	冒頭、令和4年9月12日付けで委員に委嘱した奥間千賀子委員への委嘱状交付を行った。 議事については、報告事項1件及び協議事項1件について、質疑応答及び協議を行った。 協議事項2については、時間の都合から、後日各委員の意見を聴取し、議事概要に掲載することとなった。 各議題に係る委員からの質疑、協議結果等については別紙のとおり。
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
所管課等	沖縄県立図書館
問い合わせ先	総務班 担当 玉那覇・小池 電話 098-894-5858
備 考	

会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県立図書館協議会
日 時	令和4年9月26日(月) 13:30~16:00
場 所	沖縄県立図書館 6 階研修室
<p style="text-align: center;">会議の概要 (委員からの質疑等)</p>	<p>報告事項 1 「沖縄県立図書館窓口等運営業務委託」に係るモニタリング（令和3年度対象）について</p> <p>○契約期間が2年6ヶ月となっているのは、なぜか。 〈回答〉県の契約は単年度単位であることが原則だが、本業務のように、継続した役務の提供等については、例外的長期継続契約として年度を超えた契約を締結できるが、最長3年となっている。 業者変更時の準備や引継ぎを考慮した場合、相当の休館期間が必要となる為、同時期に予定していたシステム更新に伴う休館期間と合わせる為、契約期間を2年6ヶ月とした。</p> <p>○開館当初と較べ、委託業者のスタッフ数が少なくなっているように見えるのはなぜか。 〈回答〉移転開館後間もない、平成30年度と令和元年度については、事業量（来館者）増を見込んでおり、契約料が大きくなっていた。</p> <p>○企画展示について、利用者からの評判がいいようだが、これは、県が行っているのか。 〈回答〉県立図書館の企画展示イベントについては、委託業務の範囲外であり、県職員が企画している。</p> <p>協議事項 1 沖縄県立図書館運営方針に基づく図書館評価（令和3年度対象）について</p> <p>○コロナ禍2年目だが、令和2年度よりも休館日が多かったことに驚いたが、そういった中でも、「順調」という項目がたくさんあり、頑張って図書館活動をしてきたと感じる。</p> <p>○登録利用者の増加を図るため座席予約システムの対応を検討しているとのことだが、アプリをつくらなければならないのか。世の中のシステムは、QRコードで読み取るだけ等、すごく簡略化されているので、配慮いただきたい。 〈回答〉自主学習席のシステムによる予約対応について検討中（アプリではない）。</p> <p>○県立図書館の若年層の利用者が減っていたとしても、市町村立図書館で上がっていれば良いのではないのか。全体を見た対応の検討が必要と思う。</p> <p>○市町村立図書館でも利用は上がっていない。</p> <p>○学生については、市町村立図書館に任せて、県立の本来の役割である年齢層をターゲットにしていけるのではないのか。70代以上の利用登録者数が増加しているところは、時代と合っていて評価できる。 〈回答〉目標1（県民に開かれた知の拠点）については、来館サービスに焦点を当てたものとなっている為、本来の県立図書館の役割と若干、マッチしないところがある。ご指摘の点については、課題解決を目指す目標（目標3・地域や県民の課題解決を支援する図書館）や利用者満足度調査の結果を踏まえた改善等により対応したい。</p> <p>○高校生が多いとのことだが、高校生は主に何をしているのか。 〈回答〉主に試験対策等の為の自主学習を行っている。以前は、持ち込み資料による学習は禁止していたが、要望が多い為、自主学習席を設けた。満足度調査では、「自習が出来る環境があることがありがたい」といった意見も寄せられている。</p> <p>○きっかけは、受験勉強や試験勉強だとしても、生涯学習につながる。家で勉強ができなく、塾にも行けない子もいる為、公共の場で自ら模索できるようにするということは素晴らしい。そうした意味で、SNSや若者の座席確保に関する取組は、非常に県らしい、全体を見た取り組みだと思う。</p> <p>○様々なSNSがあるが、見る人を増やす為には、それぞれのターゲット、年齢層にあった運営をしていく必要があるのではあるが、大変ではあるが、ご検討いただきたい。</p> <p>○目標2（琉球・沖縄関係資料の中核的図書館）関係の活動指標が「郷土資料の受入れ冊数」となっているが、新しい資料よりも古い資料を見に来る人が多い。また、郷土資料を網羅的に収集するので、あれば実績値が出版点数でしか変わって来ない。県立の郷土資料室は、いつも利用者がいっぱい、コピー機の前にも、いつもたくさんの方がいるので、利用人数で評価した方がよいのではないのか。 〈回答〉出版されたものは全て購入する前提だが、予算の都合で購入しきれなくなるようなこともありうる。 状況をモニタリングする意味でも、活動指標としては、購入による受入数を残したい。 ご意見いただいた、郷土資料室の入場者数や複写枚数については、様式の備考欄に記入する等して、確認できるようにしたい。</p> <p>○「郷土資料受入冊数（購入）」について、全点購入している前提なのに、達成割合が65.7%で「やや遅れ」という進捗状況になることについては、どうなのか。「達成」という評価にすることはできないのか。計画値の見直しが必要ではないか。</p>

会議結果の公表

会議の概要
(委員からの質疑等)

〈回答〉平成30年度の実績値をもとに計画値を設定したのだが、最近の新聞記事では、県産本の出版点数が年間3～400点とされており、保存用・閲覧用・貸出用の3点を購入した場合でも、1,200点程度となる。このことを考慮すると、県外で出版されたものを含めて、1,500点程度が目標として妥当ではないかと思われる。

○予算の確保を考えると目標値の見直しには慎重にならなければならないと考える。県外で出版されるもので、後からしかわからないものもある。2,000冊で設定しているのは、私から見ると妥当なラインだと感じる。

○目標3（地域や県民の課題解決を支援する図書館）に関連して、課題解決を支援する図書館としての期待はとても高い。コロナ禍は、いろんなことに支障があって大変だったと思うが、就労支援等の生活を支えることに関しては、利用促進に関する広報の実施にとどまらず、もっと工夫をしなければいけないと感じる。

○目標3の活動指標1の「パースライティング・ブックリスト作成・更新数（一般）」の達成割合が800%を超えているが、展示資料をOPACで公開するブックリストであれば結構簡単にできてしまう。一方、パースライティングについては、とても労力がかかるが、実績からはパースライティングの作成が見えてこない。どうなっているか。

〈回答〉パースライティングについては、以前からホームページに掲載されているものの更新がされていない状況にある為、更新から取り組んでいきたい。

○図書館で展示会やイベント等工夫されているが、県域の中核となる図書館という意味では、県民全体への支援が求められると思うので、色々なイベントのアピールが必要と感じる。

○昨今、本を見ることが苦手になっている子が多く、電子書籍の利用が大事だなと思っているので、冊数の増加等に取り組み、アピールしてもらいたい。

○満足度調査のアンケート回収数が少ない。いかにして県民の声を吸い上げるかという工夫が必要。

【協議結果等】

各委員の意見をメール等でも聴取することとし、メールによる意見も考慮した上で、後日、会長と事務局が調整し、外部評価コメントを作成することが確認された。

協議事項2 沖縄県立図書館利用者満足度調査実施要領等について

※時間の都合から、本協議事項については、説明のみを行い、委員意見は後日メール等により聴取することとした。メール等による意見については以下のとおり。

○アンケートの回答数を増やすために、周知箇所を増やすことは非常に大切だと思う。図書館内の自習室やビジネスエリアにある机や椅子の付近にもアンケート回答のQRコードを掲示してはどうか。ビジネスエリアの机に座ると、目の前に注意事項が貼ってあるのがわかり、必ず目が行く。その隣にアンケート回答のQRコードと一緒に掲示すれば目に留まる。図書館入口付近に掲示してあるQRコードだと立ち止まってスキャンしなければならないが、机や椅子の付近であれば、利用者は座って本を読んだり勉強したりするので、QRコードをスキャンし、息抜きにアンケートに回答する時間も十分あると思われる。

○目標1～目標3を1つにまとめて館内利用者へ依頼、目標4は別に市町村の図書館へ依頼してアンケートをとる、という提案には賛成である。目標2、目標3とも、そのサービスを利用している利用者のみ、枝分かれするような設問を作って調査を行うのではないと思う。目標3のレファレンスの評価については、回答者が少なかったので削除する、という提案だと思うが、今回は調査期間が3日しか短く、期間を延ばせば回答数は多くなると思う。もちろん、わざわざ枝分かれする設問まで進んで回答してくれる方は「満足した」としか答えない、という可能性もあるが、それでも、レファレンス対応を委託業者には任せず、県立図書館の使命にも関わる、基幹的なサービスとして今後も残すためには、こうした満足度の調査はエビデンスとして活用できるように、調査を通して確認しておいた方がよいと思う。

【協議結果等】

本議案についての意見は、後日メール等により聴取することとし、会長と事務局が調整の上、1月頃までには、実施内容等を確認できるようにすることとした。